

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミⅡ	チーム名	AOK8
タイトル	Road to the Medal : オリンピック・メダル争奪戦の舞台裏		
テーマ群	g)その他		
メンバー	増渕大雄純、寺口貴智、佐野博紀、高山将、今津有規、多田尚史、佐藤陸、金子彰吾		
研究計画内容	<p>今年のロンドン・オリンピックでは、日本の代表選手たちの目覚ましい活躍により史上最多の 38 個、世界第 6 位のメダルを獲得しました。もともと、内訳は金 7 個、銀 14 個、銅 17 個と、金メダルのランキングでは 11 位となっており、メダル数の割に低いことが少し気がかりかもしれません。では、国別のメダルの数はどのような要因によって決まっているのでしょうか？なぜ、毎年アメリカのメダル獲得数はダントツなのでしょう？かつてはそれほどでもなかった韓国の金メダル獲得数は、どうして最近多いのでしょうか？わたしたちは、こうした疑問を実際のデータや様々の資料を用いて分析します。</p> <p>まず、不特定の 100 人に対するアンケート調査を行い、その結果をもとにしてオリンピックに対する日本人の関心度や評価などを数値化し、問題提起を行います。</p> <p>次に、各国のメダルを決める要因をデータを用いて分析します。具体的には、データの関係から分析を 1984 年のロサンゼルス・オリンピック以降に限定して、国別メダル獲得数と人口、一人当たり GDP、開催国効果などの関連を、少しマクロ的な視点から考察します。</p> <p>続いて、メダル獲得数の多い国を幾つか選んで、個別の特殊要因を調べます。具体的には、毎年メダル獲得数の多いアメリカ、旧社会主義国に属する中国やロシアなどの CIS、ハンガリー、さらに多額の強化費をかけてメダル・ラッシュに沸く韓国、オーストラリアといった国々の事例を取り上げ、その舞台裏を調査・分析する予定です。</p> <p>最後に、以上の調査・分析を足掛かりとして、招致活動を含めてオリンピックに向けた日本の政策について、わたしたちなりの意見・提案を行ってみたいと考えています。</p>		